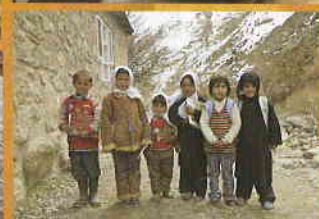
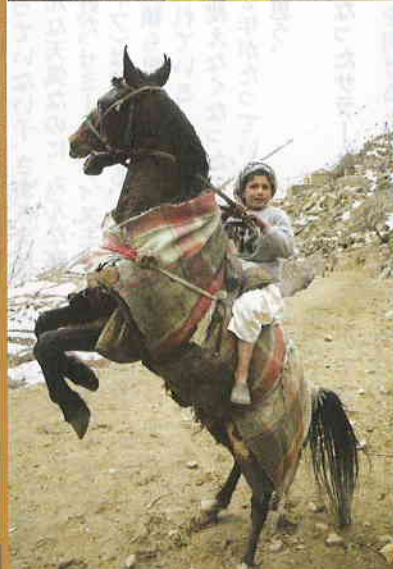


アフガニスタン山の学校だより **15号**

第6回公式訪問報告

長倉代表、2年ぶりにポーランドへ



第6回総会&現地報告会

【東京】 9月13日(日):武蔵野芸能劇場

【大阪】 10月17日(土):高槻現代劇場市民会館

ぜひ、ご参加ください！詳細は別紙にて

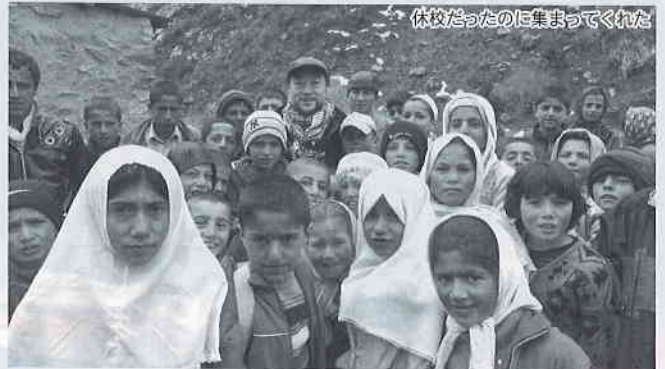
夏本番。皆様がいかにお過ごしでしょうか。今年も無事、春の公式訪問を終えることができました。新学期初日の3月23日は雪で、学校は休校になりましたが、「オマール（私の愛称が来た）」と聞きつけて、大勢の子どもたちが集まってくれました。子どもたちは元気でしたが、着衣が寒そうで前よりも粗末な感じがしました。先生たちは、主食の小麦や燃料など物価が高騰し、羊を売るしか現金収入のない村人は逆に生活が苦しくなっていると話します。世界は気象だけでなく、経済でも確実につながっていると実感しました。

現在、学校は8クラス、来年には9クラスになります。もつと教員が必要なのに、政府は逆に人員整理を進めようとしています。「8月の選挙後に誕生する新政府に再度、教員雇用を申請するしかない」とサフダル校長。それまでは「今のほうで新しい先生を雇う判断をし、面接の上、新しく2人を採用しました。財源的には厳しくなりませんが、「子どもたちにとってここで勉学を続けてもらう」ためには必要な決断だったと思います。

今回も、「山の学校の子どもたち」の屈託のない笑顔に出会い、たくさん元気とエネルギーをもらいました。9月の総会に是非いらして、子どもたちのその笑顔、はにかみ、たくましさに出会ってください。心より来場をお待ちしております。

長倉洋海

休校だったのに集まってくれた



第6回公式訪問報告

今年3月、6回目を数える現地公式訪問を行いました。今回山の学校を訪れたのは長倉代表、子どもたちとの2年ぶりの再会です。

■パンシールへ

3月21日（土）、成田を出発。ニューデリーに一泊し22日朝、首都カプーリに到着。出迎えてくれた安井さんと、彼女の家に。

23日、安井さんに用意してもらっていた黒板、ザックなどを車に積み込み、途中で文房具を買い足し、パンシールへ。2時間半後、州都バザラックに到着。校長のサフダルやヤシン先生と合流後、山の学校に向かう。

■子どもたちの出迎え

山は雲にすっぽりとおおわれている。雪だと休校。子どもたちは来ていないだろうと思いつながら、学校に到着すると、たくさんの子どもたちが出迎えてくれた。私の到着を知って来てくれたのだ。

アミンとサミール、マジヤミンもいるし、カティープとムシユゴーもいる。大きくなった子、前とあまり変わっていない子、さまざま。でもこんな天気なのに、みんな寒そうな格好だ。サミールのデイスモール（スカーフ）は破けているし、ほかの子の衣類も粗末だ。頬も手も寒風で赤切れている。前にあげた手袋はもう使えなくなったのだから。もう2年がたっている。仕方ないよなと思う。

■明るくなったサラーム

カメラを向けると、元気にいちばん前に出てきたのはサラーム。耳が聞こえなかったので、カプールの病院で診てもらうように頼んでいた。「前よりも聞こえるようになった」とサフダル校長。ただ、薬を飲まずに捨ててしまうこともあるというので、大きな声で「薬を飲むんだよ」と言うとうなずいてくれる。

■教師面接

子どもたちが帰ったあと2人の女性教師の面接をする。19歳のシグファと20歳のトウバダ。バザラックの12年制の学校をトップで卒業。英語、体育、物理を教えらるという。



月1000ドルで採用を決定する。サフダルは、「2人がボランティアで教えてくれているということにして、10月以降、新政府に正規採用を強く働きかける」と言う。

■ケーキの親睦会

昨夕から雨が降り、朝はミゾレとなる。「カプールから買ってきたケーキをみんなで食べるのを楽しみにしていたのに残念」と思っている、まだ幼い1年生をのぞくとほぼ全員が来てくれた。新1年生は25名だが、今日、来てくれたのは17名。早速カパンと筆入れを配る。雪が解けたらカプールからの転入生がもっと増えるだろうとサフダル。次は全学年にノート3冊と赤青黒のボールペンを配る。7年（19人）と8年（15人）は科目が多いのでノートを5冊ずつとする。8年生のなかに懐かしいナストルラーの姿があった。川で水泳中、落石事故があり、片足を失った子。下のバザラックまで松葉杖を使っ

て登校していたが、山の学校に中学部ができたので、戻ってきたのだ。1時間半の通学時間が4分になったという。8年生にはやはり復学を果たした20歳近くの女性生徒もいる。

●北海道釧路市 釧路市民文化会館

3月20日

その他、開催されたパネル展は次のとおりです。



報道で伝えられる危ない国としてではなくあの瞳輝く子どもたちが暮らす国として、アフガニスタンに少しでも身近に感じていただける機会をこれからもつくりたいと思つた3日間でした。
文・写真／森 桂子

広がれ！パネル展のわ

東京都 武蔵野商工会議所

4月10～12日

主催／アフガニスタン 山の学校
支援の会事務局

晴天に恵まれた4月半ば、通りに面してガラス張りの会場には通りがかりの人も多数ご来場いただき、「この子たちの心の豊かさを感じる」「あの国は悪の巣窟のように思っていたが写真を見て考えが変わった。多くの人に見せたい」などの声が寄せられました。なかには「昔旅したアフガニスタンで人々の優しさに随分助けられたことを思い出し、恩返し



いままでの校舎と建設中の校舎(手前)

は色鉛筆。安井さんがきれいに包
装紙で包み、バラの造花をつけて
くれたのでとてもおしゃれ。「これ
がアフガニスタンの習慣」と聞い
た時には、多少違和感があったが、
子どもたちのうれしそうな表情を
見て、よかったです。いいよお待ちかねの親睦会。
普段は町のケーキを食べることが
ない子どもたちへの新年祝いだ。ド
ーナツもジュースもある。授業とは
違う楽しいでなやかな雰囲気
なか、笑い声があふれた。

■新校舎の建設

いまの校舎から100メートル
も離れていない川沿いの斜面に新
校舎建設が進んでいる。川の増水
が心配だが、先生や地域の人は大
丈夫という。校舎の骨組みは出来
上がったものの、壁や床などは手
つかずだ。いま作業が止まっている
のは、政府からの建設費用が全
納されていないからだ。25%ずつ
の4回払いで、いまはちょうど半分

次の支払いがあれば、また始まる
という。完成は6か月後の予定だ。
3教室は表から光が入るが、奥
の3教室は暗くなる。電気は、すぐ
下流に建設予定の水力発電所から
引かれるというが、蛍光灯などの
備品はない。トイレの建設費も計
上されていないのが問題だ。

■ナフィサの解雇

子どもたちが帰ったあとの職員
室で衝撃的なニュースを聞かされ
る。女性教師のナフィサが先月、政
府に解雇されたのだ。パンシール
州には1200人の教員がいたが、
他地方の教師不足を補うため、
200人の転出があった。その補
充もされていないのに、さらに解
雇とは。現在、パンシール州の人
口は90万で、小学校の生徒数は約
6万人。それに対し、60の小学校し
かないという。(高校は17校)。平均
1500名の生徒数。ナフィサ解
雇の件も、サフダル校長に新しく
誕生する政府に根強く請願して
もらうしかない。それまで、会が給
与を負担することにしたが、思わ
ぬ出費。

■サフダルの病気

今回の訪問で、驚いたのはサフ
ダルの激瘦だ。もともと細いの
に、さらに12キロも体重が減ってしま
ったという。滞在中は、彼の家に泊
ったが、毎日、咳き込みがひどく、私も
寝られないことが多かった。冬の間
のスケジュールのない学校ですと授業
が冷え、体調を崩したようだ。首都
の公立病院で診察を受け、薬ももらっ
たというが、結核かもしれないと

心配になる。私が首都
に戻る時、ほかの病院
で再診察してもらう
ことにした。

学校が終わってから、
瘦せてしまい足が棒
のようになつたサフ
ダルと彼の家に向かう。
筋肉が落ちてい

ずなのに、きちんと歩いているの
に感心した。彼の家で遅い昼食を
とると隣の集落ガーウィンに。わ
ずか5家族の小さな集落だが、ど
の家にも生徒たちがいる。人々は
私を見ると「お茶を飲んで行け」と
か「ヨーグルトを食べて行かないか」
と声をかけてくれる。学校への支
援を心から喜んでくれている。持
ちが伝わってくる。

■大家族

5年生のアミンの家をのぞくと、
サミールと一緒に午後の放牧に行っ
ているという。家ではナフィサ(5
年)とマジヤミン(3年)が、下の子
3人の面倒をみていた。カブール
に2人の兄がいるから、この家は
9人兄弟。サフダルは8人、下にあ
るシーラの家も8人、ナイマの家
はなんと10人の子どもがいる。そ
の数に圧倒されるが、子どもたち
はみんな朝から晩までよく働く。
家畜の世話、水汲み、子守り、炊事
パン焼き。小麦やトウモロコシの
収穫も手伝うし、冬には雪かきが
加わる。

放牧地に向かう途中、アミンの
父親に出会った。腰を痛めていて、
めつたに表に出ないのだが、今日
は松葉杖をついて歩いている。「あ
なたの家の子どもたちは本当によ



ケーキと牛乳を御馳走に

く働かね」というと、「自分がこんな
だから、働いてもらわないと困る
んだ」と笑いながら答える。平日も
日曜もなく働く子どもたちがかわ
いそうに思える半面、それでも家
族みんなで働き、一緒に生きてい
る姿はうらやましく思える。

■子どもたちの絵

25日(水)。朝、サフダルの家に私
を迎えにきた10人ほどの子どもた
ちと一緒に登校する。

今日は、「子どもたちの一日とい
うテーマで絵を描いてもらう日だ。
画用紙を配り、「もつと大きく描い
て」「色を使って」と指導する。絵は
クレヨンや水彩絵の具を混合した
ものになったが、面白いものがで
き上がって、大満足。

サフダルの家に戻ると、長男サ
タルが里帰りしていた。学校を中
退し、首都の自動車修理工場に勤
めた。しかし、工場が閉鎖され心配
していたが、新しい職場を見つけ
たようで安心した。

夕方、アミンとサミールが放牧
に行っている山の方に歩いていく
と、下りてくる2人に出会った。ア
ミンはジャンパーの中に、生まれ
たばかりの子羊を2匹入れている。
子羊を家の下の小屋に入れ、乳を
飲ませるまで撮影を続ける。

(次頁につづく)

事務局から

●2009年度分の分割会費に
つきまして、該当する方に郵便
振替用紙を同封させていただきました。
ました。指定期日までに納入く
ださいますようお願いいたします。

●山の学校の子どもたちの絵が
ポストカードに！写真3枚セ
ットの第5集と、初の試み、子ど
もたちの絵5枚セットの第6集
を同時発売します。各集500円。
総会、現地報告会にて販売予定。
通信販売も可能です。

●不要切手と書き損じはがきの
ご提供ありがとうございます。
今回の会報送料もすべてそれら
の切手を使わせていただきまし
た。引き続きご協力をよろしく
お願いします。

●JVC(日本国際ボランティア
アセンダー)の2010年カレン
ダーは長倉洋海撮影「子どもた
ちの大地」チラシ同封です。山
の学校の子たちの写真も入って
います。総会・現地報告会にて販
売予定。売上の一部が当会に寄
付されます(JVCへの直接注
文でも同様です)。

主催/CCCジュニア文苑教室
ふみぞの湯ロビー 5月23〜31日
主催/ボランティアネットワーク・
チャレンジ隊
●香川県小豆島
土庄町内の図書館等4か所
6月17〜28日 主催/サラーム
●東京都
中野区 ビタミン・アートギヤ
ラリー 6月21〜28日 主催/
アフガニスタン山の学校支援の
会事務局
練馬区 練馬区立勤労福祉会館
7月12日 主催/ねりま地域文
庫読書サークル連絡会

26日(木)。学校で、コンテナの中で勉強する2年、3年生を撮る。そのあとは、記録用に生徒たちの顔写真を撮り始めると、昨年と同じ学年の子が多い。留年してしまっただ。特に4年生、5年生に留年が多いとわかる。英語や九九が入ってくる学年だからだろうか。

午後の放牧に出たアミンとサミールを探しながら上流部に向かう。20分ほど歩くと、サミールが橋のたもとに座っていた。その横にはソ連製のカラシニコフ自動小銃が置かれていた。狼が現れたら撃って威嚇するらしい。山の斜面を見上げると、羊を追うアミンの姿が豆粒ほどに見える。

アミンの父親が歩いて

アミンの涙



成績優秀賞をもらった子たち

放牧中に、羊が生まれた



27日(金)。今日はイスラム教の休日。朝、サフダルの長女ファトナ(6年生)が台所のカマドでナン(パン)を焼いている。妹のシャボナもかいがいくし台所仕事を手伝っている。家の裏では、サフダルが次男のパーゼットと甥っ子を手伝わせて香とリンゴの苗植えをしている。「あと1か月後には花が咲くし、3年後には食べられるよ」とサフダルが言う。峡谷のあちこちで苗を植えている人々がいた。

春の苗植え

きた。アミンを呼ぶが、なかなか下りてこない。やっと下りてくると、大きな石に腰を下ろし、背中を向けたまま。父親が「どうした?」と声をかけるが、返事がない。泣いているようだ。しばらくたって、やっと「昨日から足のつけ根が痛かったけど、今日はもつと痛い」と言うのだった。父親が足を揉み始めた。いつもは明るいアミンだが、つらいこと悲しいこともいっぱいあるのだろう。そう思うと胸が詰まった。



別れ

29日(日)。いよいよカブールに帰る日。一緒に学校に向かう子どもたちに目をやると、サレ(6年生)が着ているジャージは、2004年の最初の公式訪問でプレゼントしたものだ。シエスタは2年前にやはりプレゼントした毛糸の手袋をしている。だいたい、けばだつてはいるが、とても大切に使用してくれているのがわかった。子どもたちは、私の帰国を知って「帰らずにここにいなよ」「今度は夏に来てよ。花が咲いてきれいだよ」と口々に言う。

ボーナス

学校で図書の貸し出し数の確認。この1年で370冊以上の貸し出しがあった。グッドニュース。いつもは給与支援金額を上げてほしいという先生たちが今回は何も言わない。この2年間、5人の先生たちがバザラックよりも遠いダシユタックまで毎日、研修に通った。給与支援アップは嬉しいので、お年玉を配ることに。先生が皆、子どものような笑顔になった。

帰国へ

30日、カブールを出て翌4月1日、無事に帰国した。

※帰国後、サフダルは再診の結果、異常がないことがわかりました。



長倉洋海 最近&今後の活動

◆写真展 11/3~12/18
「30周年記念写真展 地を這うように—30years (仮題)」
キヤノンSタワー1階 キヤノンギャラリーS (東京都港区)
電話: 03-6719-9021

◆写真展 10/6~12「微笑みの降る星」
日本橋三越本店 (東京都中央区) 電話: 03-3241-3311
◆写真集『こどもたちのシルクロード』毎日新聞社
1980円 10月中旬発売予定
◆写真集『地を這うように—30years』平凡社
予価5300円 10月末発売予定



ムルサルさんのカブール通信

早いもので今年も半分が過ぎました。今年のアフガニスタンは、8月20日に2度目の大統領選挙が行われる予定です。

大統領選の立候補者は、およそ40人。現職のカルザイ大統領に元外務大臣のアブドラ氏、さらにはノーベル平和賞候補にノミネートされたことのある元財務大臣のアシュラフ・ガニ氏。さらには、元国防大臣、戦犯にも問われ、国民からはまったく人気のない、タナイ氏、市民派代表で現下院議員のラマザン・バシャルドスト氏などなど、無名候補者から有名どころまで、立候補したもの勝ちみたいな感じも無きにしも非ず。

いずれにせよ、勝つためには半数を得票する必要があり、決選投票になる可能性も大。アフガン各地で選挙運動が静かに始まりました。投票日まで2か月を切ったアフガンですが、まだまだ盛り上がりには欠けた様子です。さて、誰が大統領の座を射止めるのか、目が離せません。



校舎がなく、小さな日陰で勉強するゴール州の子どもたち

と同時に、アフガン中西部のゴール州に、日本外務省が文民を派遣しました。先日取材に行ってきましたが、日本人4名がリトアニアの地方復興部隊とともに、復興支援に関わります。さて、文民がどこまでできるか、こちらも日本初の試み、がんばってもらいたいですね。

カブールより 安井浩美